

令和元年度「全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会」

(知事賞) 優秀賞

西日本豪雨から学んだ水の大切さ

松山市立津田中学校 三年 松浦 梨々亜

二〇一八年七月、私たちは西日本豪雨を経験しました。ものすごい被害をうけたのを今でもはっきりと覚えています。この西日本豪雨を経験して私は水の大切さを学びました。

この西日本豪雨の日、私が前住んでいた地域は断水になりました。私はこの時初めて断水を経験しました。断水という言葉の意味がいまいちわからなかったので親に聞くと、

「家の水が止まるというか、出なくなる。」

と、言われました。家の水が出なくなるのはとても大変なことです。しかし、私の住んでいた家は地下水で地下五〇メートルからくみ上げているそうなので水は大丈夫でした。

次の日、いつも通り学校に行ってみると廊下にはたくさんの水が入ったバケツがおかれています。しかしそれも限りがあり、一人カップ一杯分などと制限がありました。私の家は水に困っていませんでしたが、友達の家では完全に水が出ない状況でした。また、放送では、「給水所では一人ニリットルまでで、ペットボトルを持ってきてください。」

と言っていました。私はニリットルで何ができるのかと思っています。た。お風呂や洗濯、洗い物など、ニリットルでは絶対にできない。しいて言うとお風呂でシャンプーしかできない状況。本当に大変そうでした。ペットボトルに入った水ニリットル。使おうにも使えません。私の家は水が大丈夫だったので、お風呂や洗濯機などを貸してあげま

した。また、水を分けてあげました。学校の生活でも支障がたくさん出ました。水が出ないので手洗いはウェットティッシュ、給食は簡易給食。本当に本当に水が出ないだけでこんなに困るんだなと思いました。

こんな生活を約二週間続けました。普段にはないことをして体もなかなか慣れてくれず本当にみんな疲れきっていました。約二週間このような生活をしてみて、学んだことがたくさんあります。

一つ目は、水は数え切れないあらゆるものに使われていることです。家では、料理、洗濯、掃除など。外では、トイレや水やりなど数え切れないほどいろいろな所で水は使われています。

二つ目は、水も限りある資源だということです。ダムの水、川の水、海の水などは全て限りがあります。川が干上がった所を見ると水はいつまでもあるわけではないものだとつくづく思います。

三つ目は、助け合いの大切さです。この西日本豪雨の時、県外や県内の人たちからたくさんの水をいただきました。また、水を分けてあげていた家も多くありました。私も実際水を分けてあげて、困っている人たちの力に少しはなれました。本当に少しのことですが力になってよかったですと思っています。

このように、普段あたりまえのように使っている水。でもそれは限りある資源であり、どの動物も必要としているものです。ある日突然この世から水がなくなったらどうなるでしょうか。私ならやっていけないし、生きていけないと思います。だから今、限りある資源である水を大切にしたいと思います。普段の生活で水の使いすぎに注意し、少しでも水の無駄使いに気をつかいたいと思います。西日本豪雨から学んだ水の大切さをこれからも忘れず生活していきたいです。